大阪公立大学 Osaka Metropolitan University 学術情報リポジトリ

映画上映会「卵子提供 ―美談の裏側」＆シンポジウム「卵子提供について考える」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-09-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浅井, 美智子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004849

2014年度　男女共同参画事業

映画上映会「卵子提供 ――美談の裏側」＆シンポジウム「卵子提供について考える」

概要

2014年10月18日（土曜日）、大阪府立大学　I-siteなんばにおいて、ドキュメンタリー映画「卵子提供 ――美談の裏側」を上映し、柳原良江さん、柘植あづみさん、荻野美穂さんをお招きし、「卵子提供」について考えるシンポジウムを開催しました。

日本では、1983年に初めて体外受精児が誕生して以来、体外受精は不妊のカップル（夫婦）の子作りに貢献してきました。現在、この体外受精による不妊治療が新たな局面を迎えようとしています。2013年１月、日本で初めて、無償の卵子バンク（NPO法人OD-NET）が誕生しました。外国で日本人カップルのために日本人が有償の卵子提供を行っていることは知られていましたが、国内でこのような卵子提供が開始されたことは、日本での不妊治療に新たなページが開かれたことを意味すると思います。

さまざまな病気や不妊治療の長期化によって自分の卵子によって子どもを産むことができない女性（カップル）にとって、無償の卵子バンクの登場は朗報といえるかもしれません。無償で卵子を提供する女性たちの「善意」が称賛されてもいます。しかし、他方で実際に卵子を提供した女性たちは着目されていません。卵子を提供するためには排卵誘発剤の投与（注射）や採卵など提供者の身体が医療処置の対象となります。この医療処置の結果、提供者の身体に異変が起こることも十分予測されます。ドキュメンタリー映画「卵子提供 ――美談の裏側」は、善意から卵子を提供した女性たちが深刻な医療被害に遭っていることを明らかにしています。

アメリカの不妊治療は数千億円規模の巨大産業に成長している。そこでもっとも盛んに取引されているものは何か？ ――人間の卵子だ。…卵子提供は、女性たちの助け合い、自己犠牲、科学技術の華麗なる成果など美辞麗句で語られる。…アレクサンドラは28個の卵子を提供し卵巣を失った、カイリーは45個を提供し今も脳梗塞の後遺症に苦しんでいる、シンディは60個の卵子を摘出されたあと出血し生死の境をさまよった…。
（映画チラシより）

本シンポジウムでは、アメリカでつくられたこの映画の、日本での上映を可能にされた柳原良江さんに「卵子提供 ――美談の裏側」をいかに上映可能にしたのか、また、アメリカでの卵子提供の状況などをお話しいただきました。次に高度生殖医療の諸問題を多角的に研究され、多くの発言もされてこられた柘植あづみさんに、日本での卵子提供の実情と法制度化へ向けて、どのような見方があるのか、詳細に解説していただきました。最後に、女性の生殖身体が歴史的にどのように統制、管理され、また語られてきたのか、歴史学やフェミニズムなどの視点から多くの研究をされてきた荻野美穂さんから、卵子提供について女性の身体の資源化という視点からお話いただきました。（浅井 美智子）